

## 人文社会学部 英語文化学科

### 教育目的

英語文化学科では、英語に関する実践的な能力と高いレベルの知識とを身につけると共にその育成の中で社会の諸分野で活躍できる人材の養成を図る。現代社会の多様化、情報化、グローバル化の急速な進展に伴い、英語の持つ文化的背景も益々広がりを見せているなか、英語をツールとして用いることが求められている。実際、英語の現実生活への浸透の深さ、英語教育方法の進化、学生の興味の多様化など、英語を取り巻く環境は急速に変化している。英語文化研究が学問分野に定着し、その研究領域の多様化と深化という一見相反する動きが見られる今日、柔軟且つ機敏に対応できる学生を養成することが必要となっている。本学科は、これらの変化を柔軟にとらえ、学生の必要に応じて対応できるカリキュラムにより、高度な専門的理論を学び研究するだけでなく、人間としての総合的な判断能力を培い、かつその能力に基づく高次のレベルの自己表現と、自己実現によって国際社会に貢献しうる人材を育成する。

### 到達目標

英語文化学科では、宗教的情操をふまえた高い人格を備え、明確な未来へのヴィジョンを持ち、広い知識と高い英語運用能力を身につけ、国際社会に貢献しうる人材の育成を目標とする。国際化・情報化社会で活躍するには、最新の情報を得て、その情報をもとに的確な判断をすることが求められる。グローバル化する社会の変動を読み取るために、社会の背景をなす文化・文学・歴史を理解することが不可欠である。したがって、英語文化学科では英語文化を広く、深く理解するために、様々な分野の知識を修得することを通して、変動を続ける世界を実感し、その中でどのように行動すべきかを思考できる人材を育てる。そのために学生共通の目標を社会で通用する英語力の修得とし、さらにそれぞれのキャリア目標にあわせた内容の英語及び知識を学ぶことが出来るように授業科目を配置し、学生が各自の努力を積み重ねることによってそれぞれがいただく個別の目的を達成できるように指導する。

### 履修の仕方

英語文化学科のカリキュラムは体系的学習、豊富な練習、学問的裏づけというバランスのよい編成をしている。1・2年次は英語を自由に操る必要性から、ネイティブ・スピーカーの教員主導で、英語資格取得も視野にいった、英語運用能力を高める科目を必修科目としている。同時に自主的に選ぶ習熟度別クラスでの英語演習も必修科目とし、英語読解力の育成を通じて他の英語運用能力の基盤固めも行う。

1・2年次で総合的な英語運用能力を高めた後、3・4年次では必修科目である講読演習が中心となる。選択科目で重ねて履修できる様々な英書講読と対応させて、文学、文化、社会、科学、言語、英語教育について自主的な研究と発表をベースにした授業が展開する。英語文化圏の研究を深めながら、各自の希望により卒業研究を作成する。英語の実践を積み、英語文化研究をする場として、多くの選択科目に加えて、海外研修や留学プログラムなど、その機会は豊富である。